

まちは教室、ひとは先生

このまちにくらしたいプロジェクト

みんなの公園 活用イベント

中学生がつくる
冒険あそび場

ワンダ ふるた パーク!

2013-2018
事業まとめ



中学生 × 地域

公益財団法人広島市文化財団古田公民館



みんなが先生! みんなが生徒!

多世代寺子屋ネットワーク

1. “このまち”について

(1) 古田地区について

- ・古田中学校区…広島市西区（山田・古田台・古田・高須）の4小学校区からなるエリア。
- ・人口 27,014 人、世帯数 11,164 世帯（H30.3 末）
- ・高齢化率 19.0%（市 24.6%）、年少人口率 15.3%（市 13.9%）（H30.3 末）…世代の均衡がとれた地区。（図 1）
- ・旧山陽道（西国街道）に面し、古江神楽や歴史ある寺社が残り、茶道上田宗箇家元がある。特産品は古江いちじくが有名。宅地化が進み、新興住宅も増加。

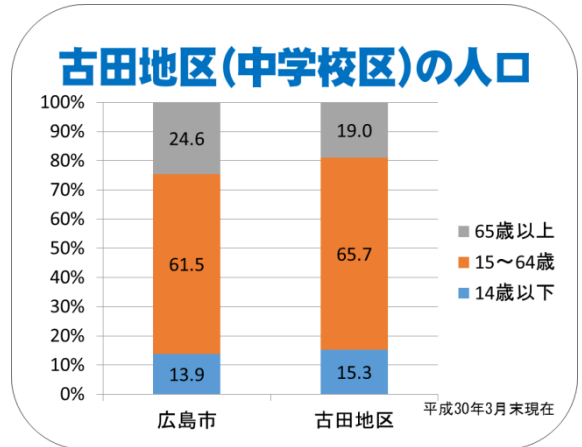


図 1 古田地区の世代別人口比率

2. プロジェクトが始まるまで

(1) 時代背景

- ・人口減少社会…日本人口 2010 年ピーク以降、急減。（図 2）
- ・人生 100 年時代…マルチステージの生き方。人的ネットワークなどの無形資産に関心。社会参加と健康寿命。

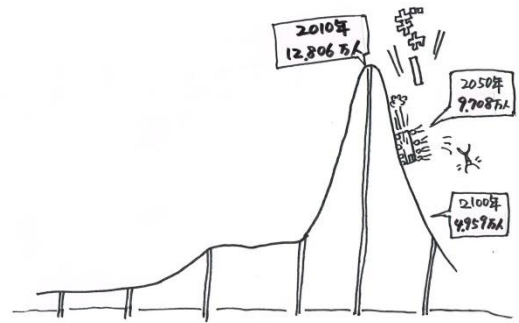


図 2 日本の人口減少をジェットコースターに例えて

(2) 古田公民館事業施策の柱に

- ・多世代が支えあふるさとづくり…世代をつなぐ事業の展開を重点施策に。

(3) 多世代寺子屋ネットワークの発足

- ・公民館ワークショップ参加者で H24 に発足。「多世代」をキーワードに地域の居場所づくり。（図 3・4）
- ・約 50 のアクションプランから、いきいきプラチナ塾…シニア対象地域デビュー講座、あはは演芸サロン…地域デビューした団体の大道芸による多世代の集い、古江いちじくプロジェクト…地域ブランドいちじくの次世代への継承と小学校総合学習支援などの特色ある公民館事業が生まれた。



図 3 多世代寺子屋のミーティング風景

(4) このまちに暮らしたいプロジェクトの始動

- ・広島市立古田中学校から ESD 学習支援の相談。公民館と多世代寺子屋で中学生の地域活動の受け皿づくり。
- ・公民館の「多世代が支えあふるさとづくり」に合致。
- ・生徒を募集し、H25 年 9 月にプロジェクトがスタート。

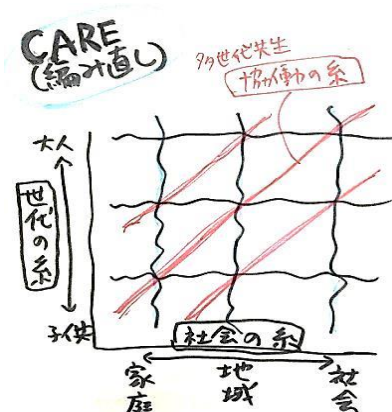


図 4 多世代寺子屋の理念「CARE（編み直し）」

3. プロジェクトが紡ぐ物語

(1) プロジェクトの目的

中学生が住民とともに、人口減少などの社会課題と向き合い、住みなれた地域で多様な世代が共生できる持続可能な将来像を描き、そのために今、住民自身でできる行動を生み出すことを目指す。

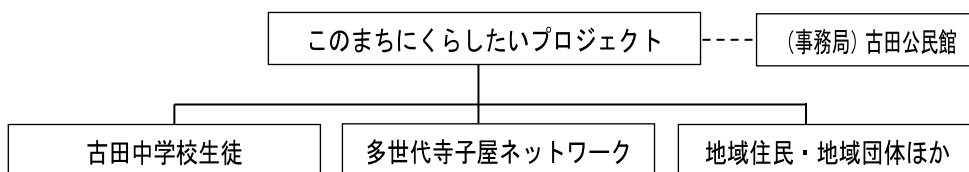
また、その学習活動を通して、社会に主体的に関わり行動する人材を育むための活動を行う。

(2) 実施主体

広島市立古田中学校の生徒（公募）と、多世代共生のまちづくりをテーマに地域の居場所づくりに取り組む住民グループ「多世代寺子屋ネットワーク」および住民等が連携し、古田公民館を拠点に、世代を超えた地域づくりに取り組む。



図5 プロジェクト第1回ワークショップ (H25. 9)



(3) 活動テーマ

「みんながしあわせにつかえる公園・あそび場づくり」

現在の公園は、価値観や生活スタイルの多様化に伴い、危険や騒音等に伴う様々な規制が利用者を減少させている実態が見受けられる。公園のあり方を住民自身で再考するきっかけをつくり、世代をつなぐ地域の居場所として再生させることを目指す。〈図6〉

(経緯)

- ・平成 25 年度にワークショップで中学生発案によるテーマを決定し、地域住民に発表。〈図7〉
- ・平成 26・27 年度で調査、立案、実験等を行い、モデルプランを「冒険あそび場（プレーパーク）」に決定。（平成 26 年度は「環境省持続可能な地域づくりを担う人材育成事業」に指定）
- ・平成 28・29 年度でモデルプランの地域定着化を図る。（広島県公民館連合会「公民館等活性化モデル事業」に指定）



図6 中学生が選んだ活動テーマ (H26. 3)



図7 一年目の成果発表会 (H26. 3)

(4) 実施概要

- 公園活用イベント「冒険あそび場ワンダふるたパーク」の実施（古江西町公園）〈図8〉
 - 冒険あそび場プレーパークゾーン（対象：子ども）
 - …ジップライン、竹ブランコ、巨大ハンモック、木工、焚火ほか
 - 大人もくつろげるカフェゾーン（対象：保護者、親子連れなど）…コーヒー、ジュース、昼のおやつ
 - にわか大道芸体験ゾーン（対象：多世代）…皿回し、バルーンほか
- あそび場づくり企画ワークショップ（古田公民館ほか）
- 他地区のあそび場視察研修 など

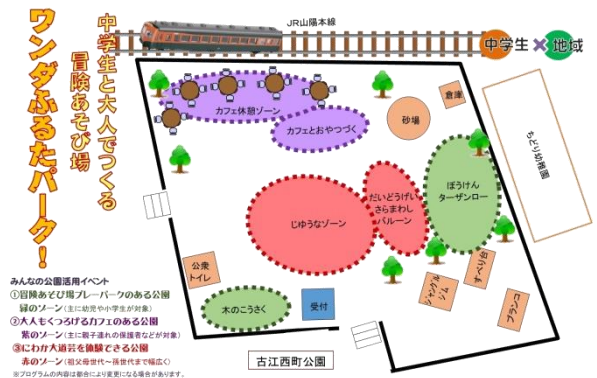


図8 ワンダふるたパークのレイアウト

(5) 活動実績と成果・課題

このまちにくらしたいプロジェクト・データ総括表

年度	期間	回数	生徒数	生徒内訳					サポーター数	サポーター内訳			延べサポーター数	サポーター数/回	内容				発表・イベント等の参加人数	アンケート満足度	延べ参加者数
				1年	2年	3年	男	女		大人	大学生	高校生			ワークショップ	外部研修	発表会	イベント			
25	10月～3月	6	12	3	6	3	6	6	23	18	5	0	69	11.5	5		1		50	90%	149
26	7月～3月	13	25	6	9	10	9	16	47	34	11	2	171	13.2	10	1	1	1	200	70%	658
27	6月～3月	15	18	3	9	6	6	12	34	23	5	6	136	9.1	12	2		1	150	89%	404
28	6月～3月	11	12	4	2	6	5	7	30	23	4	3	88	8.0	7	2		2	148	89%	281
29	5月～3月	10	9	0	7	2	0	9	44	32	5	7	128	12.8	3	3		4	485	93%	615

図9 プロジェクト活動実績総括表

(成果)

- イベント回数（H29～年4回）を増やし、毎回延べ100人を超える参加者で、公園に賑わいが生まれた。
- 利用者アンケートで、80%強の人が公園のあり方を考えるきっかけになったと回答。満足度は高評価。
- 幅広い世代をつなぐ地域の居場所として、徐々に共感を集め始めている。
- 生徒たちの遊び場づくりに共感した大人たちが様々な形でサポート。
- 子どもたちそれぞれが「公園づくり」の担い手としての意識が芽生えつつある。
- 地域団体等との連携が生まれ、認知度や信頼感が増している。

(課題)

- 持続可能な取り組みとするために、あそび場づくりの担い手を育てたり、地域の協力者を発掘する。
- 活動資金が助成金に依存している。公園での収益活動やサポーター制度、地域団体等との連携など工夫が必要。
- 公園活用以外のテーマを探るとともに、プロジェクトとしての自立を促進する時期にきている。



図10 中学生を応援する多世代にわたるサポーター

4. 生まれた交流と連携

(1) 支援者（サポーター）

- ・近所の工作指導者が遊びコーナーの企画協力を申し出。
- ・公民館のシニア向け地域デビュー講座から発足したグループが活動支援。〈図 11〉
- ・郵便局や民間ギャラリーが活動写真展の場所提供。

(2) 地域団体

- ・町内会から公園倉庫に活動用具を置かせてもらえることになり、準備の負担が軽減。
- ・会員減少に悩む子ども会の行事と連携し、交流が生まれた。〈図 12〉
- ・女性会の災害時炊き出し実習と連携し、子どもたちにおやつ提供。

(3) ネットワーク

- ・冒険あそび場づくりの団体ネットワーク「つくるあそび場ねっとひろしま」を発足し、SNS で発信。他地区の団体との情報交換や交流の場が生まれた。
- ・H31 年 3 月に公民館で冒険あそび場シンポジウムを開催予定。遊び場マップの作製も調査中。



図 11 公民館講座から発足した大道芸グループが協力



図 12 地域団体との連携が理解と信頼を育む

5. プロジェクトの展望と公民館の役割

(1) プロジェクトの成果と展望

- ・中学生の声から生まれた行動が、公園のあり方やその必要性を地域に問いかけるきっかけになった。
- ・多世代の交流機会は、中学生に限らず、大人にとっても第三の居場所として、お互いの価値観を学びあえる人間形成の場となっている。
- ・中学生によるプロジェクトチームが「広島県子ども夢基金」の助成を受け、始動。(H30 年度)
- ・これまで来園者だった小学生が企画運営メンバーとして参加。公園の主役である子どもたちが、自分たちのあそび場を自分たちで作りだすことに期待。

(2) これからの公民館の役割

- ・プロジェクトを通して感じたのは、公民館は人を集める住民の舞台装置にとどまることなく、地域のフィールド（公園、学校、商店街など）で活躍する人たちを送り出す控え室（インキュベーター）のような場所でもあるということ。そこに暮らす一人ひとりのまちを想う気持ちに寄り添い、住民の自治力やまちの付加価値を高めようとする住民活動のパートナーとして、公民館の役割を果たしていきたい。



図 13 古田公民館の全景

H25(2013)年度 30年後のまちの将来像を描き、そのために今から行動できるテーマを住民に発表。



H26(2014)年度 公園の調査、アンケートなどを実施し、計画した活用プランの体験会を開催。



H27(2015)年度 活動拠点の公園を決め、冒険あそび場を視察し、多世代が訪れるイベントを企画。



H28(2016)年度 遊びのアイデアや遊具作りのノウハウを蓄積し、遊び場づくりの基盤を整備。



H29(2017)年度 イベント開催頻度を上げ、活動をPRし、地域への定着と支援者の開拓を図る。



●プロジェクト参加者募集の広報フライヤー（生徒向け）

まちは教室、ひとは先生

このまちにくらしたいプロジェクト

中学生 × 地域

生徒募集

中学生と大人でつくる冒険あそび場
ワンダふるたパークをつくろう!

「みんなが幸せに使える公園づくり」は古田中学生の声からはじまりました。

生徒の皆さんが大人にしている30年後は、この町はどんなふうになっているのでしょうか？ 暮らしやすい町は、自分たちで問題を発見し、解決しながら、つくっていくもの。

「公園は何のために、誰のためにあるの？」そんな中学生の疑問から、「このまちにくらしたいプロジェクト」は、身近な公園のあり方

をテーマに、「冒険あそび場(プレーパーク)」つづの子どもから大人まで多世代で集える活用アイデアを提案してきました。

大人になっても住みながらこのまちで暮らし続けるために、今自分たちができることを行動化するこのプロジェクトで、一緒に30年後の未来をつくりませんか？

▼対象 古田中学校の生徒
▼活動期間 平成29年5月～平成30年3月の間で、おおむね月1回程度、土曜または日曜日に行います。
※初回は5月26日(日)9:00古田公民館集合です(詳細は申込時にお伝えします)。
2回目以降は、毎月1回程度のワークショップや企画行事などを行う予定です。試験や学校行事等と重ならないよう日程調整します。

▼主な活動場所 古田公民館(広島市西区古江西町1-9-15)、古江西町公園(古江西町2-2番)
5月26日(日)までに、古田公民館窓口または電話(272-9001)で申し込みください。
▼申込・問合せ 体験参加してみようという方、大歓迎です。直接、電話を通して随時参加申込みもできます。
※この活動は校外活動になりますので、下記申込書により保護者の同意を得て申し込みください。
▼主催 多世代寺子屋ネットワーク(公財)広島市文化財団 古田公民館

参加申込書(同意書) 平成29年 月 日

「このまちにくらしたいプロジェクト」は、学校外で行う自主的な活動です。このことを理解のうえ、私(保護者)の子ども(生徒)が、「このまちにくらしたいプロジェクト」に自己責任で参加することを同意します。

※ご記入いただいた個人情報は主催者が適正に管理し、このプロジェクトの活動以外で共有、販売、転送、第三者への提供等の事務連絡を行うことがありますがご了承ください。詳細参加された方もお手紙ですらありませんのでご安心ください。

保護者名(自署) _____ 連絡先電話(保護者緊急連絡先) _____

生徒名前 _____ 連絡先電話(生徒本人への連絡網として使います) _____

(年 組 / 男 ・ 女) _____

住 所 _____ 電子メールアドレス(電子メールが可能な方) _____

その他、目ごころをつけていることがあれば、お書きください。

●プロジェクト活動写真展の広報フライヤー

このまちにくらしたいプロジェクト
中学生とつくる
冒険あそび場

ワンダふるたパーク!

写真展

中学生 × 地域

「みんなが幸せに使える公園づくり」は古田中学校生徒の声からはじまりました。

Gallery Cafe 月~yue~
広島市西区古江新町8-19
TEL 082-533-8021
http://www.g-yue.com

展示期間 4/5(木)～15日(定休日月曜)
10:30～18:30(最終日は17:00まで)

photo by Masao Kawahara

●ワンダふるたパーク(3月4日)の広報フライヤー<左:表面、右:裏面>

まちは教室、ひとは先生

このまちにくらしたいプロジェクト

みんなの公園 活用イベント

古田中学校の生徒とまちの大人たちがつくる多世代まちづくりのこのまちにくらしたいプロジェクト。

テーマは「公園」。「公園は何のために、誰のためにあるの?」

そんな中学生たちの疑問からスタート。みんなが幸せに使える公園について学び、考え、体験する中で、「冒険あそび場(プレーパーク)」づくりに取り組んでいます。

「自分の責任で自由に遊ぶ」冒険あそび場を中心に、子どもたちが元気に外遊びできる場を提案します。

ぜひ、子どもたちをお連れで遊びに来てください!

ワンダふるたパーク!

中学生と大人でつくる冒険あそび場

公園にあそびにお誘いします

日時 3月4日(日) 11:00～15:00頃
※期間内、出入り自由です。

場所 古江西町公園(通称ちどり公園)
広島市西区古江西町22番-ちどり稲荷通り
※雨天以外で実施できず中止となる場合は中止します。

プログラム(予定)

みんなの公園 活用体験会

- ① 冒険あそび場(プレーパーク)のある公園(主に幼児・小学生が対象)
- ② 大人もつくれるカワエのある公園(主に親子連れや保護者などが対象)
- ③ じわカ大道具を体験できる公園(幅広い世代が楽しめます)

※プログラム内容は都合により変更になる場合があります。

参加方法 参加無料。
※お子さまが初めて参加される場合は、古田公民館等で配布するチラシ裏面の申込書記入の上にお申し込みください。

問合せ 古田公民館(電話082-272-9001)

共催 多世代寺子屋ネットワーク(公財)広島市文化財団 古田公民館

協力 古江西町町内会・古江女性会

遊びは、子どもがコミュニティで何よりも最初に来る権利となる。そして子どもが自然に備わった生きるためのトレーニングであり、この権利をいかに活かすかというコミュニティは、そこに暮らす市民の心身に影響を与えることになるだろう。

デビッド・ロイド・ジョージ
(プレーパーク)冒険あそび場 運動障害の地・英国の元首相

みんなが先生! みんなが生徒!
多世代寺子屋ネットワーク

●ワンダふるたパーク●
H29年度開催スケジュール(予定)
※各回開催日により変更になる場合があります。

第1回 6/11(日) 無料
第2回 8/20(日) 有料
第3回 12/17(日) 無料
第4回 3/4(日) いずれも11:00～15:00頃
※期間内、出入り自由です。

サポートメンバー募集中!

3/4(日) 11:00～15:00 古江西町公園

●古江西町公園案内図

※駐車場はありませんので、お車の方は近隣の有料コインパーキングなどをご利用ください。

「みんなが幸せに使える公園づくり」は古田中学生の声からはじまりました。

ある日、中学生たちは「公園はもっと多様な活用ができるのでは?」というコミュニティの中の公園のあり方を考えるようになりました。その中で多岐、地域全体で子育て支援ができる公園活用のアイデアとして、冒険あそび場づくりに取り組むことになりました。

中学生がつくる冒険あそび場「ワンダふるたパーク」は、子どもたちが遊びの中で「想像力」や「冒険心」を働かせたり、危険に対して「注意する力」を育むなど、自由な発想で思いっきり遊べる場をコミュニティの中につくらうというものです。できるだけ子ども同士の遊びを制限することなく、大人はおおらかに見守ってほしいと考えています。

そのため、「自分の責任で自由に遊ぶ」という趣旨のもと、「けがは自分の責任」という約束に同意してご参加いただくことをお願いします。ぜひ、中学生たちの地域に対する思いにご賛同いただける(幼児、小学生等の)保護者の方は、下記の参加申込書(同意書)に必要事項をご記入の上、お子さまとご来場、あるいはお子さま(注:小学生低学年以下は保護者同伴)に持たせて会場の受付にお渡しください。

このまちにくらしたいプロジェクト事務局「多世代寺子屋ネットワーク」
平成30年3月4日

冒険あそび場「ワンダふるたパーク」参加申込書(同意書)

冒険あそび場の「自分の責任で自由に遊ぶ」という趣旨のもと、「けがは自分の責任」という約束を理解し、私の子どもが「ワンダふるたパーク」に参加することを同意します。
※ご記入いただいた個人情報は主催者が適正に管理し、当該活動以外では使用しません。

保護者名(自署)(必須) _____ 連絡先電話(保護者緊急連絡先) ※保護者同伴の場合、記入不要。

住 所(必須) _____ 電子メールアドレス(メール案内を希望の場合、記入)

子ども名前・年齢・性別(必須) ※ご兄弟など複数名のお子さまがご参加の場合は全員をご記入ください。

()歳(男・女)	()歳(男・女)	()歳(男・女)
-----------	-----------	-----------

当日の様子を写真に記録し、フェイスブックなどで紹介する予定です。写真に写りたくない人は印を入れてください。
□ 写真に写りたくない。

次回冒険あそび場「ワンダふるたパーク」開催案内を記入されたメールアドレスに送ります。ご希望の方は印を入れてください。
□ メール案内を希望する。※パソコンからのメールを受信拒否設定されているなど送信されない場合もあります。

平成 25 年 12 月 20 日 中国新聞

2013年(平成25年)12月20日(金曜日) 中国新聞 桑井 隆

西区古田 防犯や特産栽培提案



古田地区の理想像を話し合い、模造紙に書き込む生徒(右側の2人)たち

広島市西区古田地区の課題を探り、目指す住民たちが、魅力あふれるまちづくりに向けた「このまちにくらしたいプロジェクト」に取り組んでいる。ワークショップを通して地区1回ハースで活動して

10月の初めに、11月は地区を歩き、点在する空き家などを確認。3回目の今日は、30年後の地区の理想像について意見を交わした。商店街に「空家」を農地に変え、特産のイチジク栽培を広がる。同地区はマンションや新興住宅が多く、市

まちの未来像 中学生探る

内他地区と比べて子どもの割合が高いという。将来を見据え、まちづくりに子ども視点で、点在する空き家などを確認。3回目の今日は、30年後の地区の理想像について意見を交わした。商店街に「空家」を農地に変え、特産のイチジク栽培を広がる。同地区はマンションや新興住宅が多く、市

平成 27 年 3 月 7 日 読売新聞

2015年(平成27年)3月7日(土曜日)

公園で使う手作り遊具を準備する中学生ら(広島市西区の古田公民館で)



30年後もにぎわう町に

広島市立古田中(西区)の生徒有志が、「このまちにくらしたいプロジェクト」と題して2年前から放課後や休日を使って話し合い、8日に地域住民と連携して古田新街第一公園でイベントを開く。生徒たちは「多くの人に楽しんでもらい、世代を超えて楽しみたい」と意気込んでいる。(山本美菜子)

広島市立古田中 生徒

プロジェクトは、国連教育・科学・文化機関(ユネスコ)が推進する「持続可能な開発のための教育(ESD)」の一環。同中が環境問題や貧困など国際的な視点に立った授業を取り組む中で、地域と連携して町の将来を考える活動を2年前から始めた。古田公民館を拠点に、地域の大人たちも交えて話し合いを重ねた。「高齢化が進めばにぎわ

「公園で交流」テーマ あす住民とイベント

いもなくならし、世代も偏る「子どもだけで遊ばないし、流もない」など、その意見を約する中、今できる活動として「地域の公園をもっと生活する」ことをテーマに定め、専門家の指導を基に、施設や公園、グループホールで約1000人、アンケートを実施。現地調査では、コピーショップや遊び場がある中区の公園を訪れた。その結果、騒音を問題視する意見や、年代によって違う楽しみ方があることも気づいたという。そこから考え出したのは、会場の公園を、音に配慮して遊ぶプレイゾーンや、自費大会を行う交流ゾーンをカフェを設けるレストゾーンに3分割すること。生徒らのアイデアで生まれたハサイルント忍びのあそび術は、忍者のように声をきかせるなど、様々なゲームの工夫を凝らした。プロジェクトリーダーの3年大島知輝君(15)は、学校の授業より気合が入った年間だった。プロジェクトを通じて地元に着きかけた」と振り返る。同プロジェクトは今後も地域連携の活動を展開していく。

「平成 26 年度地域版 ESD 環境教育プログラムガイドブック」 2015 年環境省発行 <https://edu.env.go.jp/esd/news/682>

【問題意識の共有、目指すべき将来像の構築】

こんな地域になつたらいいな!

事例 1-1 地元中学生が地域の将来を考える 西区・古田地区

【取組主体：古田中学校、古田公民館、地域住民有志等】

古田中学校の生徒と古田地区の地域住民とが一緒になって、「このまちにくらしたいプロジェクト」を立ち上げ、地域の30年後のまちと暮らしを考えています。



- 古田中学校に通う生徒のうち希望があった者約25人と、地域住民約20人が、月に1回程度、休日や放課後に、古田公民館の会議室等で話し合っています。
ワークショップを通して、中学生自ら自分達が暮らす地域の課題を探り、目指すべき将来像の検討や、具体的な行動プランの提案を行うこととしていて、ワークショップの講師には、外部の専門家を招いています。
また、話し合った結果を発表する機会もあり、平成27年3月には、「みんながしあわせに使える公園★遊び場をつくらう!大作戦」と題し、「子どもからお年寄りまで多世代が集い楽しく使うにはどうすればいいか」など、1年間かけて話し合ったことを公園で発表しました。
取組のきっかけは、古田中学校から住民に、生徒の地域参加の相談をしたことで、受け皿として古田公民館を拠点に多世代の居場所づくりに取り組む住民グループ「多世代寺子屋ネットワーク」が支援しています。

Table with 2 columns: 参加メンバー, 実施日時等, 発表会. Details about the project's progress and participants.

「住宅団地活性化ハンドブック(事例集)」 平成27年広島市発行

http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1428018987826/index.html



このまちにくらしたいプロジェクト

ESDの要素: 持続性, 地域性, 責任性. 能力態度: 主体性, 多様性, 協働性.



①みんなが幸せに使える公園のアイデアを考える ②地元住民の声を聴いて公園のニーズを調査 ③中間発表を通して企画をブラッシュアップ

Table titled 'プログラムの流れ' (Program Flow) with 7 columns: 1時間目, 2時間目, 3時間目, 4時間目, 5時間目, 6時間目, 7時間目. Details the schedule and activities of the project.

プログラムの流れ: 1. 問題意識の共有、目指すべき将来像の構築. 2. 地域版ESDプログラムの開発. 3. 地域版ESDプログラムの実施. 4. 地域版ESDプログラムの評価.

プログラムの流れ: 5. 地域版ESDプログラムの普及. 6. 地域版ESDプログラムの継続. 7. 地域版ESDプログラムの発展.

参加者の声: 「多世代の大人たちと交流でき、とても貴重な経験ができました。」「このまちをよりよくしたい」という思いが、自分たちの活動につながりました。

小学校高学年 小・中学校 公民館 自然・生命 3R 公害 温暖化 産業 生活